

令和8年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科 1年	科目名	心 理 学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当者	稲増 未佳	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1:基礎心理学の理解 2:心理学用語の理解 3.:リハビリテーション心理学の理解 4:その他			評価方法			
授業概要	基礎心理学について、基礎的、歴史的な変遷を学び、科学的、客観的学問としての理論等を項目ごとに学ぶ。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	心理学入門	使用器材	パソコン				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	心理学とは 心理学の歴史						
第2週	心理療法 その1						
第3週	心理療法 その2						
第4週	心理療法 その3						
第5週	心理テスト その1						
第6週	心理テスト その2						
第7週	転移						
第8週	注意						
第9週	パーソナリティ						
第10週	発達 その1						
第11週	発達 その2						
第12週	障害受容						
第13週	共感と傾聴						
第14週	試験対策						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	国家試験問題を渡しますので少しずつ行ってください。						

令和8年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科 1年	科目名	社会福祉学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当者	稲増 未佳	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 社会福祉の知識を深め、生活モデルと医学モデルの違いについて学ぶ。 2 社会福祉の制度、政策を理解することで、対象者の理解を深めることが出来る。 3 社会福祉的視点を身に付けることで、生活のしづらさを理解することが出来る。 4 社会福祉と医療の繋がりを理解することが出来る			評価方法			
授業概要	社会福祉制度は、私たちの生活を支える身近な制度であることを理解する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	よくわかる社会福祉 第11版	使用器材	パソコン、パワーポイント				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	オリエンテーション(なぜ社会福祉を学習するのか)						
第2週	社会福祉の基礎概念(社会福祉と言う考え方)について学ぶ。						
第3週	社会福祉をとりまく状況(社会福祉における価値と理念、実践課題)について、学ぶ。						
第4週	社会福祉の歴史と展開(バイステックの7つの原則について)学ぶ。						
第5週	ノーマライゼーション(考え方と展開)について学ぶ。また、定義を学ぶことにより専門性を高める。						
第6週	生活保護法(概要、歴史、現状)について学び、臨床場面に反映させる。						
第7週	社会福祉の援助と方法(面接場面、ケースワーク、グループワークの違い)について学ぶ。						
第8週	介護保険の概要と歴史的背景について学び、臨床場面に反映させる。						
第9週	障害の概念と分類について学び、(ICIDHとICFの違い。臨床場面への応用。)						
第10週	高齢者福祉の現状と問題点について知識を深める。						
第11週	障害者福祉の現状と問題点について知識を深める。						
第12週	リハビリテーションとは何か(意義、源流、分野)について学ぶ。						
第13週	これからの社会福祉の課題。作業療法士として何が出来るかを学ぶ。						
第14週	期末試験対策を実施する。						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	講義に参加する前は事前に配布した資料に目を通すこと。また、復習は適宜行い、知識の習得を目指すこと。						

令和8年度

授業計画書

学科・学年	作業療法学科 1年	科目名	コミュニケーション学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当者	林 あゆみ	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	医療職として求められる対人援助技能を学ぶ。 1 敬語を正しく理解する。 2 伝える(話す)ことができる。 3 受け取る(聴く)ことができる。(相手の気持ちに耳を傾ける。)			評価方法			
授業概要	授業で学習した対人援助技能知識を1対1及びグループ等で実践体験する。臨床場面においても実習を実施する。			期末試験 90% 学習態度 10% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	PTOTのためのコミュニケーション実践ガイ	使用器材	PCなど				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	対人援助						
第2週	伝達トレーニング						
第3週	母音トーク・サイレントトーク						
第4週	コミュニケーション効果						
第5週	トータルコミュニケーション						
第6週	アクティブリスニング						
第7週	価値交流学习						
第8週	共感						
第9週	促し&繰り返しの技法トレーニング						
第10週	リーダーシップ						
第11週	状況対応論						
第12週	指示と助言と支持						
第13週	評定者浅在尺度、ジョハリの窓						
第14週	スリー・テン						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	実生活を復習の場とし、実践を積んで下さい。						

令和8年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科 1年	科目名	統計学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当者	樋口 浩幸	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 office word、office excel、office powerpoint等の基本的なパソコン操作を習得する。 2 統計の基本的な考え方を理解する。 3 統計の手法を理解する。 4 論文等に使用される統計手法を理解する。			評価方法			
授業概要	リハビリテーションに従事する医療関係者が、研究を行う際に、統計は避けて通れないツールである。パソコン操作に加え、統計の基本的な考え方や手法を学習する。			レポート 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	すぐできる！リハビリテーション統計	使用器材	配布資料				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	PC実習室の利用について。 office Word の操作方法(配布資料)						
第2週	office Excel の操作方法(配布資料)						
第3週	office Powerpoint の操作方法(配布資料)						
第4週	統計とは？ 統計の概要を理解する(配布資料、教科書 P1～P4)						
第5週	なぜ統計が必要なのか？ 母集団・標本を理解する(配布資料、教科書P10～P15)						
第6週	仮説検定、P値、有意差について理解する (配布資料)						
第7週	信頼区間について理解する(配布資料)						
第8週	データの尺度、標本を理解する(配布資料、教科書P4～P10)						
第9週	正規分布、平均値、中央値、標準偏差を理解する(配布資料、教科書P19～P29)						
第10週	2標本のパラメトリック検定、ノンパラメトリック検定を理解する(教科書P33～P48)						
第11週	3標本以上のパラメトリック検定、ノンパラメトリック検定を理解する(教科書P49～P90)						
第12週	相関と回帰を理解する(配布資料、教科書P91～P101)						
第13週	研究の種類を理解する(配布資料)						
第14週	論文抄読(各自調べて用意してくること)						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	分からない点はそのままにせず、その都度質問をすること。適宜復習を行っていくこと。						

授業計画書

学科・学年	作業療法学科 1年	科目名	文章構成	授業時期	前期	授業時数	15
実務経験		担当者	小淵 由美子	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1. 基礎力(語彙・文法)、読解力(意味理解・文章構成・資料分析)、作成力(通信文・意見文)について練習問題等を通じて基礎的な文書構成ができる 2. 適切な語句の使用した論理的な文章で自分の考えが表現ができる 3. 作業療法実施での記録の重要性を理解できる			評価方法			
授業概要	「根拠に基づく作業療法」が求められる臨床において、作業療法の際に作成する評価、記録、報告書で適切に対象者の状況を表現する能力は必要不可欠である。基礎から、臨床に活用できる文章構成について学ぶ			レポート,学習態度等: 40% 小テスト: 60% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	文章力が身につく本、文章検定テキスト	使用器材	PC、配布資料その他				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	作業療法における文章構成の重要性について配布資料を参考に学習します 資料:臨床家のための実践と報告のすすめ:入門編 第1回「作業療法記録・報告書の書き方」						
第2週	文章の基礎力:語句と文章の組み立てについて学習します(簡単な小テストを実施) 慣用句や・四文字熟語についての知識も深めます						
第3週	文章の読解力:文章作成には、書く力があればいいというのではなく、情報を読み解く力(読む力)が必要です。意味理解・文章構成について学習します (簡単な小テストを実施)						
第4週	文章の読解力:実際の文章を読んで要旨を把握してみましょう(感想文の作成) 「すぐれた文章とは」について理解を深めます						
第5週	演習:「車いす体験」グループワークで自分の考えを伝え、協議するコミュニケーションスキル(話す・聞く)の向上を図ります						
第6週	演習:「車いす体験」の発表を通じてコミュニケーションスキル(話す・聞く)の向上を図ります						
第7週	文書作成力:正確に情報を相手に伝えるための書く力や通信文(手紙の型)について学習します (簡単な小テストを実施)						
第8週	文章作成力:相手に自分の考えを理解し納得してもらえる意見文には根拠となる事実が必要です。 技術や考える力について学習します。演習:事実を集めるための方法(ブレイン・ストーミング)						
授業外学習指示等	講義で簡単な小テストを実施します。文章を書く力は学習すればできるようになります。真面目に取り組みましょう。他人の文章を読み取る力や文章作成する能力はコミュニケーション能力とも一致します。意見発表やグループワークは積極的に行動するようにしましょう。						

令和8年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科 1年	科目名	医学英語	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当者	稲増 未佳	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・症状と疾患・障害の名称、人体の各部位の名称と機能用語を覚え表出できる。 ・治療の場面で用いられる英語表現を理解し表出できる。 ・身体動作の英語表現を理解する。 ・簡単な英語長文を理解する。 			評価方法			
授業概要	臨床で用いる医学用語の基礎と実際を学ぶ。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	リハビリテーション英語の基本用語と表現	使用器材	パソコン				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	Why do you want to become an occupational therapist ?① 姿勢他						
第2週	Why do you want to become an occupational therapist ?② 骨格他						
第3週	What do you have to study to be an occupational therapist ? ① 筋他						
第4週	診断・治療に関する基礎英語						
第5週	診断・治療に関する基礎英語						
第6週	診断・治療に関する基礎英語						
第7週	診断・治療に関する基礎英語						
第8週	診断・治療に関する基礎英語						
第9週	診断・治療に関する基礎英語						
第10週	役立つ英語表現						
第11週	役立つ英語表現						
第12週	役立つ英語表現						
第13週	復習						
第14週	復習						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	講義に参加する前は事前に配布した資料に目を通すこと。また、復習は適宜行い、知識の習得を目指すこと。						

令和8年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科 1年	科目名	保健体育講義	授業時期	前期	授業時数	15
実務経験		担当者	井ノ口 征幸	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1.運動学の基礎となる力学や物理を学ぶ 2.自分の身体を使って「動き」を理解する 3.動作や生活行為を理解するための「分析する力」を身につける			評価方法			
授業概要	健康の保持増進に努め、自ら運動、休養、栄養(食育)の健康の三原則を学び、実践できる。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	配布資料	使用器材					
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	オリエンテーション 資料						
第2週	生体の機能と構造1 資料						
第3週	生体の機能と構造2 資料						
第4週	骨 資料						
第5週	神経 資料						
第6週	重心 資料						
第7週	圧力 資料						
第8週	総括 資料						
授業外 学習指示等							

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科 1年	科目名	解剖学 I	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当者	三好 和則	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 人体を構成する骨格について理解できる。 2. 運動に関与する骨の種類とその形状を説明できる。 3. 関節の種類を説明できる。			評価方法 定期試験を実施する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 (100点換算で60点以上で合格)			
授業概要	解剖学は、人体の正常な形態と構造を理解する分野である。解剖学が正常体の形状を研究するのに対して、その機能を扱うのが生理学であるが、解剖学と生理学の境界はないとも言われている。 医学の基礎知識として重要な分野となる。						
教科書等	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版	使用器材	骨標本、PC等映写				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	解剖学総論 人体の区分 P.3～						
第2週	解剖学総論 人体の構成 P.9～						
第3週	骨格総論 P.37～						
第4週	骨格各論 頭蓋骨 P.46～						
第5週	骨格各論 脊柱 P.58～						
第6週	骨格各論 胸郭 P.65～						
第7週	骨格各論 上肢の骨1 P.68～						
第8週	骨格各論 上肢の骨2 P.68～						
第9週	骨格各論 下肢の骨1 P.78～						
第10週	骨格各論 下肢の骨2 P.78～						
第11週	関節と靭帯総論 P.97～						
第12週	頭蓋の連結、脊柱、脊柱と頭蓋及び胸郭の連結 P.113～						
第13週	上肢の連結 P.123～						
第14週	下肢の連結 P.137～						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	授業を理解するために、基礎固めヒント式トレーニング(基礎医学編)の該当ページを必ず復習すること。						

令和8年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科 1年	科目名	解剖学Ⅲ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当者	三好 和則	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	①中枢神経系の構造と働きを理解する。 ②末梢神経系, 感覚器系, 内分泌器官の知識と理解を深めること。 ③日常に見られる感覚・内分泌の働きを説明できること。			評価方法			
授業概要	解剖学Ⅲは作業療法を学ぶ上での基礎となる人体の構造(解剖)と働き(生理)を関連付ける学問である。本科目では特に大脳新皮質, 間脳, 脳幹, 小脳, 脊髄などのいわゆる脳・脊髄に分類される中枢神経系と, 脊髄神経から派生する末梢神経系および感覚器系についてそれぞれの構造と機能を重点的に学習します。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版	使用器材	PC等、臓器模型				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	神経学総論 P.229～						
第2週	髄膜と脳室系 P.235～						
第3週	中枢神経系 大脳1 P.256～						
第4週	中枢神経系 大脳2 P.256～						
第5週	中枢神経系 脳幹 P.245～						
第6週	中枢神経系 小脳 P.251～						
第7週	中枢神経系 脊髄1 P.241～						
第8週	中枢神経系 脊髄2 P.241～						
第9週	末梢神経系 脳神経1 P.300～						
第10週	末梢神経系 脳神経2 P.300～						
第11週	末梢神経系 脊髄神経1 P.278～						
第12週	末梢神経系 脊髄神経2 P.278～						
第13週	末梢神経系 自律神経 P.311～						
第14週	感覚器系1 P.319～						
第15週	感覚器系2 P.319～						
授業外 学習指示等	臨床における基礎知識であり、国家試験でも多く出題されます。授業後の復習が重要です。						

授業計画書

学科・学年	作業療法学科 1年	科目名	生理学 I	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当者	稲増 未佳	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1.体内環境の調整メカニズムを説明できる。 2.神経における興奮伝導のメカニズムとその特徴を説明できる。 3.中枢神経系の各部位(脊髄～大脳)の役割・機能を説明できる。 4.骨格筋の収縮メカニズムを説明できる。 5.体性感覚を分類して列挙し、それぞれの特徴を説明できる。 6.身体の防御機構を説明できる。			評価方法			
授業概要	正常な人間に起こる各組織の働きとして、まず生命現象の基本としての細胞機能と生体内の情報伝達機構を教授し、次いで、植物機能と動物機能を系統別に講義する。			定期試験を実施する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	標準PT学・OT学 専門基礎分野 生理学第6版(医学書院)	使用器材	パソコン等				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	生命現象と人体	A.身体の階層性 B.生命現象 C.水 D.ホメオスタシスと負のフィードバック					
第2週	細胞の構造と機能	A.細胞の構造と機能 B.静止電位と活動電位					
第3週	神経の興奮伝導と末梢神経	A神経細胞の構造 興奮の発生と伝導 C末梢神経の種類					
第4週	神経の興奮伝導と末梢神経	D自律神経 Eシナプスにおける興奮の伝達					
第5週	中枢神経系	A中枢神経系とは B脊髄					
第6週	中枢神経系	C脳幹 D小脳					
第7週	中枢神経系	E間脳:視床と視床下部 F大脳皮質					
第8週	中枢神経系	G脳の 高次機能 H大脳基底核と脳梁 I 辺縁系 J脳室と脳脊髄液・血液脳関門					
第9週	筋と骨	A筋の分類 B骨格筋					
第10週	筋と骨	C心筋 D平滑筋 E 骨					
第11週	感覚	A感覚とは B体性感覚					
第12週	感覚	C内臓感覚 D特殊感覚					
第13週	血液	A血液の組成と機能 B赤血球 C白血球					
第14週	血液	D血小板 E血漿 F血液型					
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	国家試験基礎分野での重要な科目であり、復習を必ず行い資料を整理しておくこと。						

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科 1年	科目名	人間発達学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	発達障害に対する支援経験	担当者	井ノ口 征幸	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 「発達」について理解する。 2 発達のそれぞれの段階における身体的精神の特徴を理解する。 3 発達のそれぞれの段階間の連続性を理解する。			評価方法			
授業概要	胎児期から高齢期に至るまでの身体的及び精神的発達を、生活活動及び機能別発達面から、その過程を学習するものとする。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	コメディカルのための専門基礎分野テキスト 人間発達学	使用器材	PC、液晶プロジェクター、配布資料				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	人間発達概論1						
第2週	胎芽、胎児期、乳児期 ①						
第3週	子どもの発達を考える1 乳児期の発達						
第4週	胎芽、胎児期、乳児期 ②						
第5週	巧微動作の発達						
第6週	乳児期、視覚・聴覚・知覚・認知・情緒・社会的技能の発達						
第7週	子どもの発達を考える2 幼児期前期の発達						
第8週	子どもの発達を考える3 幼児期後期の発達						
第9週	幼児期後期						
第10週	学童期						
第11週	学童期、ピアジェ						
第12週	青年期エクリン						
第13週	成人期						
第14週	高齢期						
第15週	各種検査						
授業外 学習指示等	1 講義に臨む前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。 2 授業内容を復習し、疑問点があれば次の授業で質問すること。						

授業計画書

学科・学年	作業療法学科 1年	科目名	運動学 I	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	病院で運動機能療法分野勤務7年	担当者	松谷 信也	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1.運動器の構造及び機能について説明できる。 2.運動面軸・筋収縮の種類を説明できる。 3.各関節運動に必要な構造の仕組み及び筋を説明できる。 4.上肢・下肢・体幹の筋の起始停止及び神経支配を説明できる。			評価方法			
授業概要	基礎的知識としての解剖学・生理学をベースに、人間の運動を理解統合する為に、四肢と体幹の骨・筋・靭帯の構造と機能の理解から生体力学と関節運動の関係へと理解を広げ、臨床に結びつく実践の知識として学ぶ			定期試験を実施する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	15レクチャーシリーズPTOTテキスト運動学	使用器材	パソコン等				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	上肢帯と肩関節の運動 その1	◎ポイント:上肢帯と肩関節の動き 上肢帯の筋					
第2週	上肢帯と肩関節の運動 その2	◎ポイント:上肢帯と肩関節の動き 上肢帯の筋					
第3週	肘関節と前腕の運動 その1	◎ポイント:肘関節の動き 肘関節の筋					
第4週	肘関節と前腕の運動 その2	◎ポイント:肘関節の動き 肘関節の筋					
第5週	手関節と手の運動 その1	◎ポイント:手の骨、腱鞘					
第6週	手関節と手の運動 その2	◎ポイント:手関節と手の筋、手のアーチ 手の機能肢位、手の変形					
第7週	下肢帯と股関節の運動 その1	◎ポイント:股関節の動き、筋					
第8週	下肢帯と股関節の運動 その2	◎ポイント:股関節の動き、筋					
第9週	膝関節の運動 その1	◎ポイント:肘関節の動き					
第10週	膝関節の運動 その2	◎ポイント:肘関節の動き					
第11週	足関節と足の運動 その1	◎ポイント:足のアーチ					
第12週	足関節と足の運動 その2	◎ポイント:足のアーチ					
第13週	頸椎の運動	◎ポイント:頸椎					
第14週	胸椎と胸郭の運動	◎ポイント:胸郭の動き					
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	復習は、講義内容を同日中の内に振り返ること。						

授業計画書

学科・学年	作業療法学科 1年	科目名	リハビリテーション概論	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	脳疾患、リハビリ系の治療経験有り	担当者	小淵 由美子 印	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 「人間的復権」という視点から、リハビリテーションの思想や活動を理解できる 2. リハビリテーションが社会的に認知され現在に至るまでの歴史や経過を事例等を通じて理解し、制度や専門職種の役割などを理解できる 3. 多様な障害に対してリハビリテーションはチームアプローチとして実施されており、その中での作業療法士の役割や活動を理解することができる			評価方法			
授業概要	「リハビリテーション」の意味を理解する。疾患構造の変化と高齢者社会の中で、作業療法士として、リハビリテーションの理念、歴史の変遷、その種類について学ぶ。また、医学的リハビリテーションを中心とした障害の種類やと障害のレベル、社会復帰に向けたリハビリテーション過程学ぶ。更に障害者が地域で生活するために必要とされる教育的、福祉的、職業的リハビリテーションについて学ぶ。			期末試験 80% 課題・レポート 20% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	入門リハビリテーション概論 リハビリ:生きる力を引き出す	使用器材	配布資料等				
週							実施結果
第1週	イントロダクション 第7版の序:リハビリテーションの基本理念として(1)障害者の自立と社会経済活動への参加の支援がある。「障害者」「自立」とは何かを学ぶ						
第2週	第1章 リハビリテーションとは:基本理念である自立と自助との違いは何か「個人モデル」から「社会モデル」へ障害のパラダイム(枠組)転換について学ぶ						
第3週	第2章 病気と障害 :現在日本で高齢化にともない介護が社会問題となっており、介護を必要とする原因の1つである認知症のケアについて歴史的な経緯を学ぶ						
第4週	第2章 病気や障害を持ちながらも地域社会で本人の望む暮らしを送れる社会にするために必要なリハビリテーションを支える制度について学ぶ						
第5週	第3章 ハビリテーションとリハビリテーション「若者も高齢者も健常者も障害者も普通に生活するための共に生きる社会が正常である」ノーマライゼーションの原理について学ぶ						
第6週	第4章 リハビリテーションと心理 :リハビリテーションの過程では心身の状況を把握する面接と多くの心理検査が利用されている(認知機能を検査するスクリーニング検査の演習)						
第7週	第4章 心理的適応の過程:障害を受けた衝撃として不安・怒り・恐怖は当然の心理反応であるが時にリハビリテーションの進行にも影響する。障害受容について学ぶ						
第8週	第5章 リハビリテーションの諸問題:「医学的リハビリテーションと障害福祉サービス」疾病の自然経過と医学的リハビリテーションと機能的予後について学ぶ						
第9週	第6章 リハビリテーションの過程:評価とプログラムについて、医学的リハビリテーションの進め方におけるアセスメントの重要性やプログラムの作成までの過程について学ぶ						
第10週	第6章 リハビリテーションの過程 :チームアプローチと専門職:医学的リハビリテーションの過程では複数の専門家によるチームアプローチが行われている。専門職の役割について学ぶ						
第11週	第6章 リハビリテーションの過程:医学的リハビリテーションの進め方:アセスメントの重要性や評価からプログラムの作成までの過程について学ぶ						
第12週	第6章 リハビリテーションの目的は生活の質(QOL)の向上を含めたものへと拡大している。演習 ①生活の質の評価方法 ②生活の質を上げるための活動						
第13週	第7章 機能障害をもたらす主な疾患と外傷、先天異常および精神障害 障害者基本法から機能障害の諸相について学ぶ						
第14週	第8章 リハビリテーションを支える社会保障制度 :自助・公助・共助の三者間のバランスのとれた福祉の達成が望まれる。社会保険制度について学ぶ						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	リハビリテーション＝機能訓練と考えられがちですが、深い思想や哲学や人間理解に裏打ちされた活動です。対象者の望む生活に向けて援助する作業療法士の基本となる考えを理解することが重要です。座学に加え動画視聴やレポートなど様々な内容により、リハビリテーションへの理解が深まるように学習していきます						

授業計画書

学科・学年	作業療法学科 1年	科目名	作業療法概論	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	病院での勤務経験20年	担当者	小淵 由美子 印	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 作業療法士の仕事内容について全体像が理解できる 2. 作業療法の歴史や理念「作業」のもつ可能性を理解することができる 3. 作業療法が多様な障害や健康増進に貢献できることを理解する			評価方法			
授業概要	作業療法の活動の広がり、定義、歴史、実際の活動の場、作業療法過程など作業療法全体を理解する。作業療法が人々の健康と幸福を促進するために実践される医療であり、対象者の生活への援助ができることを学ぶ。			期末試験 80% レポート等 20% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	作業療法概論第4版 医学書院	使用器材	配布資料等				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	作業療法の紹介 :ある身体障害者の作業療法のかかわり:事例を通じて考える。 作業療法の紹介DVD:生活に困難が生じた対象者にどのような援助ができるのか学ぶ						
第2週	I 作業療法の紹介 1作業の「意味」 作業療法の定義の変遷を通して作業療法士の活動を学ぶ						
第3週	1作業療法における「作業」 意味・範囲・分類について						
第4週	2 作業療法の歴史と原理 起源から成熟までと作業療法の原理を理解する 3 作業療法に関する基礎知識						
第5週	4 作業療法の実践現場 A医療 B介護・福祉 C療育や教育 D行政や司法 車椅子体						
第6週	屋外での車いす駆動・介助体験(公共交通機関の利用や実際の市街地移動)						
第7週	「車いす体験」発表 II. 作業の分析と治療への適応						
第8週	II 作業療法の分析と治療への適応手段 作業療法では作業を「目的や価値を持つ生活行為」している。 作業分析や治療的な意味、具体的な活用の仕方について学ぶ						
第9週	II 作業療法の分析と治療への適応手段 国際生活機能分類(ICF)の分類に沿って適応を学ぶ。 A心身機能 B活動・参加 C環境因子						
第10週	III 作業療法の養成と教育						
第11週	IV 作業療法の実践課程 事例を通して考える						
第12週	V 作業療法の実際 身体機能分野における作業療法に実際～精神機能分野						
第13週	V 作業療法の実際 発達機能分野における作業療法に実際～高齢期分野						
第14週	VI 作業療法の管理運営						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	「概論」とは全体のあらましを要約して理解することです。作業療法について初めて手にする「専門書」作業療法概論で作業療法士の仕事と関係のある知識について座学で学習します。また、動画やレポート、車いす体験のグループワークなどを通じて作業療法を深く理解できるように積極的に取り組みましょう。						

授業計画書

学科・学年	作業療法学科 1年	科目名	作業療法管理学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当者	三好 和則	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	①作業療法士に必要なマネジメントを理解できる。 ②作業療法を取り巻くあらゆる諸制度や環境を理解できる。 ③作業療法臨床実習を理解できる。 ④作業療法士としてのキャリア開発に理解が出来る。			評価方法			
授業概要	作業療法士を目指すうえで、現在の多様なニーズとサービスを把握しておく必要がある。また、社会保障制度の変革や社会情勢の変化などで対象者のニーズや権利に対する意識も変化してきている。これらに対し、組織や業務の管理運営を理解し、質の高い作業療法を提供できるようになることを目的とする。			期末試験 80% 授業態度 20% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	作業療法管理学入門	使用器材	PC等				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	作業療法とマネジメント P.2～	マネジメントの資源とその特性、PDCAサイクルの要素、目標設定の重要性等を理解し、作業療法におけるマネジメントを考察する。					
第2週	組織の成り立ちとマネジメント P.12～	組織に対する理解、病院組織における作業療法の役割や部門の労務管理を理解する。					
第3週	情報のマネジメント P.24～	情報の種類、階層性の特徴などを理解し、作業療法業務に関連する情報の取り扱い際の注意点を理解する。					
第4週	医療サービスのマネジメント P.36～	サービスとは何か、医療サービスさらに作業療法におけるサービスのマネジメントを理解する。					
第5週	医療安全のマネジメント P.48～	アクシデント、インシデント、医療過誤、ヒューマンエラーを理解し、作業療法の実施を考察する。					
第6週	作業療法業務のマネジメント① P.58～	人材育成、職場環境の特性、作業療法業務の経済性などについて理解する。					
第7週	作業療法業務のマネジメント② P.70～	情報、タイムマネジメント、ストレスマネジメント等について理解する。					
第8週	作業療法業務のマネジメント③ P.82～	作業療法実践について、地域や災害時、行政機関などでの作業療法士の役割を理解する。					
第9週	作業療法の役割と職域(1) P.98～	作業療法の法的根拠や関連する法律などについて理解する。					
第10週	作業療法の役割と職域(2) P.98～	職能団体の意義と作業療法の領域 などについて理解する。					
第11週	作業療法士の職業倫理 P.108～	倫理的態度、倫理的ジレンマ、患者・対象者(児)の権利と尊厳について理解する。					
第12週	作業療法を取り巻く諸制度 P.118～	作業療法が働く施設における制度を理解し、地域のあり方を理解する。					
第13週	作業療法臨床実習の理解と管理体制(1) P.134～	臨床実習の位置づけ、目標と評価、求められる学生の資質などについて理解する。					
第14週	作業療法臨床実習の理解と管理体制(2) P.134～	指導体制と指導方法、求められる学生の資質などについて理解する。					
第15週	キャリア開発 P.146	実践知、資格認定制度の仕組みを理解し、自身のキャリア開発を考察する。					
授業外学習指示等	1.講義に臨む前は教科書の該当箇所を読んでおき、わからない所があったらそれらを書き出しておくこと。 2.復讐は、特にその日の授業の授業の重要事項をその日のうちに振り替えること。						

令和8年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科 1年	科目名	作業療法評価学 I	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	病院、地域医療での勤務14年	担当者	樋口 浩幸	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 作業療法士に必要な評価を理解する 2 作業療法士に必要な評価技術を習得する 3 作業療法士に必要な器材の使用方法を理解する 4 作業療法士に必要な記録方法を理解する			評価方法			
授業概要	評価の基礎と身体障害領域での基本的な評価を学びます。 (面接、観察、バイタルサイン測定、関節可動域測定、徒手筋力検査法、その他の評価、評価の記録)			期末試験 80% レポート 20% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	標準作業療法学 作業療法評価学 他	使用器材	配布資料、ゴニオメーター、聴診器、血圧計、人体骨格模型等				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	評価とは 面接・問診・観察を理解する(教科書 P1～P51)						
第2週	バイタルサインを理解する(血圧、呼吸、体温等)(教科書 P53～P63)						
第3週	関節可動域測定とは 講義(教科書 P72～P94)						
第4週	関節可動域測定 実技 上肢①(教科書 P72～P94)						
第5週	関節可動域測定 実技 上肢②(教科書 P72～P94)						
第6週	関節可動域測定 実技 下肢①(教科書 P72～P94)						
第7週	関節可動域測定 実技 下肢② (教科書 P72～P94)						
第8週	関節可動域測定 実技 頸部・体幹等(教科書 P72～P94)						
第9週	徒手筋力検査法とは 講義(教科書 P96～P107)						
第10週	徒手筋力検査法 実技 上肢①(教科書 P96～P107)						
第11週	徒手筋力検査法 実技 上肢②(教科書 P96～P107)						
第12週	徒手筋力検査法 実技 下肢①(教科書 P96～P107)						
第13週	徒手筋力検査法 実技 下肢②(教科書 P96～P107)						
第14週	徒手筋力検査法 実技 頸部・体幹等(教科書 P96～P107)						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	座学・実技ともに適宜復習を行うこと。						